

2.8kmのコースを制限時間100分と200分で競うカントリー



吉無田の地にライダー集結

春の九州MTBカーニバル

九州各地のマウンテンバイク愛好家が集まる「MTBカーニバル」が4月16、17の両日、吉無田高原で開かれました。オフロードバイシクル九州(福岡県宮若市)が主催。この大会は、4歳から62歳までのライダー210人がエントリーしました。レースは、制限時間内の周回数を個人や団体で競う「カントリー」と、急傾斜やS字カーブを一気に下ってタイムを競う「ダウンヒル」が行われました。選手たちは、自分だけの最速最短コースを攻略して、吉無田の大地を勇猛果敢に攻めていました。

アンモナイトの化石に挑戦

化石のレプリカ作り

恐竜博物館で人気行事のひとつ「化石のレプリカ作り」が5月1日、カルチャーセンターで行われました。化石のレプリカ複製品を通して、古代の生き物を学んでもらおうと同博物館が主催したもの。親子連れなど36人が参加して、中生代のアンモナイトのレプリカ作りに挑戦しました。石こうと水で形を作り、色づけをして、手のひらサイズのアンモナイトを完成させていました。参加者の米村崇礼くん(木倉)は、「アンモナイトの形がうまくできました。これからも恐竜博物館で化石を勉強したいです」と話していました。



石こうで形づけたアンモナイトに色づけする子どもたち

恐竜ガイド試験に14人合格

恐竜の郷みふねプロジェクト総会

恐竜の郷みふねプロジェクト(竹田津純会長)の総会が4月14日、カルチャーセンターで行われ、恐竜観光ガイド養成講座2級の受講生に修了証書の伝達式などが行われました。同プロジェクトでは、恐竜の知識、化石の採集法やレプリカ作製法などを学習して、恐竜案内人を育成しています。平成22年度の講座には27人が受講して、課程修了者は18人。修了者は恐竜観光ガイド2級試験に挑戦して、受験した14人全員が見事合格しました。総会では、平成23年度の活動に、1級ガイド講座の追加、恐竜博物館の催し参加、恐竜看板づくり、ガイド本作成などの計画を説明しました。2級ガイドを修了した岩瀬英次さん(熊本市)は、「子どもたちに恐竜の楽しさを伝えながら、次は1級ガイドを目指します」と意気込みを話しました。



恐竜観光ガイド養成講座2級を修了した受講生

1_例年に増して買い物客でにぎわう河川敷の種イモ市会場 2_御船の弁当大集合は安くてうまいと人気を集めて即完売 3_恐竜モニュメントも設置されて市を盛り上げた 4_昭和初期頃に使用されていた発動機が並んだ 5_自慢の愛車で応援に駆けつけたハーレー愛好家たち



1 「種イモ市」に発動機とハーレーの愛好家が集合



2



3



4



5

春の訪れを告げる「種イモ市」が4月1日から30日までの5日おきに御船川河川敷で開かれ、多くの買い物客でにぎわいました。

種イモ市は今から約370年前に、産業の振興と仏教の教えを広めるためはじまったと伝わる伝統市。主役の種イモは、石川早生、赤芽大吉やウハンなど10種類と品揃えも豊富で、品質の良さも売りのひとつです。しかし近年は、出店農家が高齢化で減少するなど、市の存続が危惧されていました。そこで御船種いも市保存会(赤星孝宏会長)が発足し、4月10日の種イモ市に合わせ、発動機の実演やハーレー大集合などを企画。市の盛り上げと存続に名乗りをあげました。

発動機は、九州発動機保存会御船支部の本田清春支部長(七滝)に協力を依頼。県内外の愛好家たちが約50台を持ち込んで、懐かしい音を響き渡らせました。また西日本ハーレー・オーナーズ・クラブの宮部桂次副会長(辺田見)も趣旨に賛同して、九州各地のハーレー軍団に呼びかけ、30台以上が応援に駆けつけました。御船の弁当大集合では、町内12店舗の飲食店が、240個の弁当を販売。瞬間に完売する人気ぶりで、御船産の味を宣伝しました。

本町から市に唯一出店している渡辺君子さん(滝川)は「今年は初日から買い物客が多くて、山芋を100個買った人もいました」と繁盛ぶりを笑顔で話していました。